

IBM i マニフェスト 事例DB、 まもなくオープン!

マーケティング分科会が推進してきた「IBM i事例データベース」の制作がスタートしている。すでに100を超える事例の応募があり、さらに増える見込みという。オープンを間近に控えた同サイトの内容を紹介しよう。

IBM iマニフェスト・ホームページ
www.iforum.ne.jp

IBM iの事例を集約

本誌前号 (No.12) でも「IBM i事例データベース」(以下、事例DB)の取り組みを紹介したが、昨年12月末より募集がスタートし、サービスインが秒読みになってきた。事例DBは、IBM iのシステム環境上で実際に構築されたユーザー事例を紹介するもの。本稿では、構築中の内容を紹介していこう。

最初に、事例DBの狙いについて、IBM iマニフェスト マーケティング分科会リーダーの小野寺栄二氏(株式会社CSIソリューションズ ソリューション推進部 担当部長)は次のように語る。

「ユーザーが何らかのシステムを検討する時、どの技術を採用するか、どのような製品を選択するか、どこかのベンダーに委託するか、さまざまな項目を対象とします。その中で、強い関心を持ち重視するのが事例です。つまり、実際の業務の中でシステムはどのように作られ、どのような効果を上げているのか。問題はないか、業務ユーザーの感想やシステム部門の評価はどうか、ということについて事実を知りたいと思われています。そしてIBM iの事例は、日本IBMやベンダーのWebサイトなどで数多く紹介されていますが、センターのような位置づ

画面1



画面2



けの、ユーザー事例を集約したWebサイトはありません。今、構築中の事例DBは、統一したフォーマットで多数のベンダーのいろいろな事例を掲載し、それを自由な検索でご覧いただき、IBM iの世界の奥深さや広さを知っていただくためのものです」

多様な切り口で事例検索

事例DBのトップページのデザイン案が画面1である。「探せます」という目立つ文字の下に検索窓があり、自由な単語を入れて検索ができる。結果は、「検索結果」のページで該当する事例が一覧表示され、そこから個別の事例紹介ページへ飛ぶ仕組みである。

また、自由検索とは別に、「業種別」「ニーズ・課題別」「ソリューション分野別」のカテゴリーが設けられ、そこから目的の事例へ進むこともできる(画面2)。業種別では、製造、卸売・小売・サービス、IT・通信など9業種。ニーズ・課題別では、コスト・TCO削減、売上向上、生産性向上・業務効率化など12項目。ソリューション分野別では、トレンド、基幹系、情報系など10分野に分かれている(図表1)。ソリューション分野別の「トレンド」の中も、仮想化、レガシーマイグレーション、SaaS・ASPなどと細かく分かれており、かなり具体的に事例を絞り込むことができるようになっている。事例を紹介するページでは、次のような項目が設けられるようだ。

- 1 事例タイトル
- 2 事例概要
- 3 背景
- 4 導入前の課題・ニーズ
- 5 解決方法
- 6 導入後の効果
- 7 導入年度
- 8 フェーズ
- 9 プロジェクト規模
- 10 開発言語
- 11 図表・イメージ

1~6は、それぞれ200~1000字で説明するもの。事例DBでは、ユーザー企業の名称と規模、所在地も明記されるので、どのような会社か、どんな課題やニーズを抱え、何を解決方法として

図表1 各カテゴリーの項目

| 業種別 | ニーズ・課題別 | ソリューション分野別 |
|------------|---------------------|-------------|
| 製造 | コスト・TCO削減 | トレンド |
| 卸売・小売・サービス | 売上向上 | 基幹系 |
| IT・通信 | 生産性向上・業務効率化 | 情報系 |
| 金融・保険 | 顧客満足度向上 | セキュリティ |
| 運輸・物流 | 意思決定迅速化 | 運用管理 |
| 公共・教育 | インフラ基盤強化 | インフラ・ネットワーク |
| 建設・不動産 | セキュリティ強化・コンプライアンス対応 | サーバー・ストレージ |
| 医療・福祉 | コミュニケーション向上 | Web |
| その他業種 | 事業継続 (BCP) | 開発支援 |
| | 人材育成 | 研修 |
| | 最新テクノロジー活用 | |
| | その他 | |

選択し、どれくらいの工数や期間をかけてシステム化を行ったか(あるいは運用しているか)が詳細に分かる内容だ。

掲載される事例は、ユーザー企業との了解が必要で、その了解を得て、ベンダーが事例掲載用シートに記入したものに基き作成される。IBM iに絡むものであれば特に制約や制限はなく、どのような事例でも掲載できるという。

競合事例もどんどん掲載

また、事例DBサイトにアクセスするユーザーの選択肢を多くするため、同種の製品や技術を利用する事例であっても掲載可能とする方針だ。ベンダーには「競合」となるが、ユーザーにとっては「より多くのソリューションを知りたい」と

いうニーズに合致するので掲載していくという。ユーザーにとっては、1つのテーマに対して、各ベンダーや各製品がどのようなソリューションを提供しているかを比較できる格好のサイトになりそうである。

1月20日現在、まだ募集中だが、「すでに100以上の事例の申し込みがある」という。

サイト構築でノウハウを持つ株式会社LYZON (<http://lyzon.co.jp>)の協力を得、使い勝手のいい、魅力的なサイトの制作が進んでいる(図表2)。

事例DBのオープンは、3月の予定。IBM iマニフェストの活動期限である2011年3月までの1年間に、どのようにWebサイトが成長するか、注目したい。

図表2 IBM i事例データベースの完成イメージ

